



34万国鉄労働者の怒りを総結集し 「60・3」実力決起へ

支部拡大8割 代表者会議

日刊
動労千葉

85. 2. 12

No. 1861

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

動労千葉は、2月8日、千葉運転区講習室において全支部三役および本部・支部乗務員分科役員の出席をもって、「第4回、拡大支部代表者会議」を開催し「60・3」ダイ改阻止にむけた2/3月闘争の具体的方針について討議・決定した。追い込み段階に入っている全支部でのオルグ・闘争体制づくりさらに拍車をかけ、また、教宣部より発行された「『60・3』職場討議資料」の活用とあわせて、この「拡大支部代」方針を全支部全職場のすみずみまで討議を深め、圧倒的確信のもと総決起体制を万全にうち固めていこう。

動労千葉の基本的立場

「拡大支部代」は、「60・3」に決起するにあたって以下の基本的立場を確認した。

- ① 「60・3」粉碎闘争は、現下の「総屈服情況」をのりこえ、全国の国鉄労働者の怒りの総反撃をよびかけ勝ちとっていく闘いである。
 - ② あくまでも原則的闘いを貫徹しぬくことよって、労働運動と労働組合の原点を死守し、反撃の活路を切り拓く闘いである。
 - ③ 要求の実現のため全組合員の職場生産点からの実力反撃―組織力・団結力を創り出し、「60・3」阻止総決起体制をつくり上げていこう。
- 屈服は「15万人首切り」への道だ

「60・3」攻撃は、①動乗勤制度改悪による全乗務員への殺人的労働強化、②それをテコとした全職種の勤務大改悪への波及、③それによる今後5年間に10〜15万人の要員削減↓分割・民営化への突破口、④この過程を通して労働者に「総屈服」をせまる攻撃である。

もし仮りに、労働者・労働組合がこの攻撃に闘わずして屈服し協力していくならば、労働運動は変質し解体され、労働者はバラバラに分断され、互いにいがみ合い、殺人的労働強化と「過員」対策と称する「出向」「帰休」「首切り」を甘んじて受けざるをえなくさせられるのだ。さらに進んで、労働組合が当局になりかわって職場から組合員を追い出していくようになっていくのだ。それこそ、あの裏切り集団「動労本部」革マルの道への転落である。

攻撃の凶暴さは敵の危機のあらわれである。「敵しいから闘えない」のではなく、闘わないからよけい敵の思うツボにハマり、自らの闘いの手をしばり、敵を勝手気ままに増長させてしまっているのだ。われわれは、この核心点をはつきりと見据え、労働運動の原点にたちかえって歯をくいしばってでも闘いぬかなければならない。

今が反撃のチャンス！

2月8日、国鉄当局は、「三本柱」をめぐる国労・動労千葉等に対する「一方的団交打ち切り通告」（昨年10月10日）を撤回し、われわれの団交継続要求に応じる旨を回答してきた。

これは、動労「本部」革マルの屈服し協力にも関わらず、全職場の労働者の怒りと抵抗の中で「三本柱」の一方的強行政策が破綻にひんしていることを、当局自らが白状したものである。同時にそれは、当局の先兵と化して「三本柱のクリアー運動」に全力をあげている動労「本部」革マル路線の破綻をも鮮明につき出している。もちろん当局はこの「一歩後退」を通じ全組合をあらためて「再建」論議にとりこむことをもって「全組合の屈服し協力」を狙っていることも明らかであるが、当局側の危機的現状はおおうべくもないと言える。

今こそ反撃に転じるチャンスである。われわれが断固闘いぬぎ、34万国鉄労働者の怒りを闘いに転化し、世をあげた「再建論議」の屈服路線をうち破り、国鉄問題の本質を正しく全社会に突き出すことができれば、この攻撃をうち破る階級闘争の爆発―勝利の展望を大きく切り拓ける情勢にある。「拡大支部代」は以上の立場にたつて、全組合員の一致団結をもって闘う次の方針を決定した。

2/3月の具体的取り組み

- ① 2月中・下旬第一波闘争として、非協力・安確認行動を実施する。
- ② 団体交渉を強化し、要求の前進がかりがたいた時、及び当局が一方的に交渉打ち切り―業務命令等の「60・3」強行攻撃に出てきたときは、公労委等をも活用して闘う。
- ③ 3月2日、全国に呼びかけ「動労千葉総決起集会」（千葉中央公園）を開催する。
- ④ 以上の闘いを貫徹し、なお要求が解決しないときは3月、第二波闘争を実施することとし、具体的戦術等は支部代または、臨時委員会を開催決定する。
- ⑤ 「60・3」ダイ改阻止の徹底した闘いから「3・24三里塚」への圧倒的結集をかちとり、85春闘前段の情勢を切り拓き、過員活用攻撃をね返す組織体制を確立する。